

経営発展支援事業を活用した先輩農業者のすがた(初期投資【機械や施設を購入】されたみなさん)

【経営発展支援事業】

採択年度	営農類型	水田	野菜	果樹	酪農
令和5年(2024年)		京都府 山本 義久 さん			
令和4年(2023年)		山形県 秋場 淳克 さん 茨城県 赤塚 啓希 さん	青森県 匿名希望 さん 岩手県 中村 知宏・愛 さん 宮城県 (株)Punks Farmer 群馬県 匿名希望 さん 埼玉県 萩原 直人 さん 新潟県 本間 浩司 さん 岐阜県 田中 利昌 さん 愛知県 伊藤 和人 さん 三重県 津田 彰史 さん 滋賀県 満嶋 敏行 さん 兵庫県 祐尾 智紗美 さん 奈良県 山本 敏貴 さん 島根県 匿名希望 さん 山口県 匿名希望 さん 徳島県 川嶋 雄一・恵 さん 愛媛県 松本 昌人 さん 高知県 西村 郁弥 さん 福岡県 松本 恭平 さん 佐賀県 匿名希望 さん 長崎県 匿名希望 さん 熊本県 福本 巧 さん 大分県 匿名希望 さん 宮崎県 中島 笑里 さん	山形県 高橋 善祐・未来 さん 栃木県 中村 麻衣 さん 長野県 山岸 さん 静岡県 稲木 遊野 さん 石川県 大石 衛 さん 和歌山県 畑 篤志 さん 広島県 農事組合法人にじいろファーム	北海道 河合 佑奈・聖 さん

河合 佑奈さん・聖さん（33歳・34歳）

（営農類型：酪農）

新規就農を志した経緯・背景

牛、牛乳、酪農が大好きな二人。
海外等でたくさんの研修を経験し、放牧主体で新規就農先を探していたところ、小規模で放牧酪農が盛んな北海道せたな町へ研修に入ることになった。
町内酪農ヘルパー等を経て、令和4年4月から経営を開始した。

導入した機械・施設等

- ・パイプミルカー設置一式
（36頭、4ユニット）
- ・バルククーラー（2,000L）



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・第三者継承での就農であり、継承元で活用していた農機具等を最大限利用し初期投資を抑えた。
- ・パイプラインミルカーは、経営5年目に更新予定だったが、経営発展事業を活用し、前倒して導入し自己負担額の軽減を図った。

導入の効果

- ・経営発展に必要な機械・施設を導入したことで、早期の経営安定、規模拡大に繋がった。
- ・今後は段階的に設備投資や規模拡大を行い、就農9年後には就農時からの農業収入230%増を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（H23～R4）

- ・平成23年から道内外の牧場で研修。
- ・河合佑奈氏は平成31年に3ヶ月間、ヨーロッパ5カ国の牧場で研修。
- ・両氏について、酪農ヘルパーとして就労経験あり。
- ・家畜改良や安定した牧場管理の方法、酪農畜産経営に関する知識を取得。

現在（就農2年目）

経産牛27頭

- ・経営継承をスムーズに行ったことなどにより、計画より飼養頭数の増加が図れている。
- ・個体販売価格の暴落も生乳生産量でカバーし安定経営に繋がっている。

今後の目標（就農10年後）

経産牛29頭

- ・土壌分析をもとに肥培管理を行い、飼料自給率向上を目指す。
- ・放牧酪農への移行を目指す。

匿名希望さん (40歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に15年勤めていたが、ものづくりや自営業にあこがれ、実家でやっている農業に興味を持つようになった。

地元ではトマトの生産者が増加しており、高収入が見込めると考え、地元の営農大学校で新規就農者向けの研修を受講し、令和4年に親と別部門で独立・自営就農した。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス120坪 2棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・所有するハウス1棟について、J Aトマト部会員に働きかけ、中古のハウスを見つけて自力施工するなど、できるだけ初期投資を抑えるようにした。
- ・資金計画を作成する際に、役場や普及指導員に相談しながら整備内容を検討し、経営発展支援事業や町単独事業を組み合わせで自己負担額を抑えた。

導入の効果

- ・ハウスを増設することにより、トマトの出荷期間が延長し、8月～11月初めまで出荷が可能となった。
- ・今後は収量の向上と面積拡大を図っていくことで、就農5年後の所得目標達成を目指す。

就農の状況と今後

現在（就農2年目）

トマト(360坪) 11.88a
ミニトマト(80坪) 2.64a

- ・前年に事業で整備したハウスでトマトを作付開始。
- ・ミニトマトは契約栽培により経営の安定化を図っている。

今後の目標（就農5年後）

トマト(720坪) 23.76a
ミニトマト(80坪) 2.64a

- ・ハウスの整備を計画的に進めていく。
- ・自動灌水装置の導入で省力化を図る。
- ・農業所得260万円を目指す。

就農準備（R2～3）

- ・令和2年に会社を退職し、親の農業経営（水稻、にんにく）に1年間従事した。
- ・令和3年に営農大学校主催の新規就農者向けの研修を受講し、先進農家でトマト、ミニトマトの栽培技術を学んだ。

中平 知宏さん・愛さん (26歳・27歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

幼いころから慣れ親しんだ農業への関心が高まり、農業大学校へ進学。将来を見据え県内の大規模農場へ就職し、栽培技術等を習得。農場での経験が自身で経営展開することへの意識を一層高めた。また、これまで祖父が主要な作業従事者であったが、高齢化に伴い継承を決意し、令和4年に経営を継承、経営開始。

導入した機械・施設等

- ・ライムソーワ 1台
- ・バーチカルハロー 1台
- ・オフセットシュレッター 1台
等



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・雇用就農した大規模農場における作業体系をもとに、実家で経営していた少量多品目から機械体系でできる品目に絞った経営を計画。
- ・主要品目をベースに輪作体系を考慮の上導入する品目を決定し、必要な機械を選定。雇用就農した大規模農場における機械体系を参考に、必要最低限の機械導入を実施。

導入の効果

- ・機械導入により、効率的な土づくりが可能となり、生産量の増加が期待できる。また、雑草防除や輪作地での緑肥処理も可能となり、よりよい土づくりが可能となった。
- ・フォークリフトの導入により小コンテナからスチールコンテナにし、出荷作業の省力化・効率化が図られた。

就農の状況と今後

就農準備 (R3～4)

- ・県立農業大学校を卒業後、県内の大規模農場で研修。
- ・研修先では、主に収穫、出荷作業、畑づくりなど機械作業に従事。
- ・市の担当者や普及員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

長芋60a、ネギ30a、トウモロコシ30a、加工用トマト60a

- ・事業で作業機械を導入し作業効率が向上。
- ・販売額は低下したが、生産効率の向上により利益は増加。
- ・農業所得は約180万円。

今後の目標 (就農5年後)

長芋75a、ネギ30a、トウモロコシ50a、加工用トマト80a

- ・理想的な輪作体系構築のため、長芋を主要品目に規模拡大を進める。
- ・農業所得は約420万円。

(株) Punks Farmer

代表取締役 早坂 亜由美さん (41歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

消費者として購入したミガキイチゴの品質の高さに感銘を受けたことがきっかけとなり、山元町にて2年間の研修後、令和4年に経営開始。ICTを活用して生産性の高い経営を行うことで農業に対するイメージを変え、農業の道へ進む次世代の若者や女性を増やしたいという思いで新規就農を決断した。

導入した機械・施設等

- ・パイプハウス 2棟
(親株・育苗用)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始前に事業計画を作成し、必要な設備投資の精査を行った上で、補助事業や制度資金を組み合わせる必要な施設・機械を導入した。
- ・ハウスの建設にあたっては、研修先や先輩農家に相談し、整備内容を検討した。

導入の効果

- ・就農1年目は、すべて購入した苗で栽培を行ったが、パイプハウスの導入により、自社の苗で栽培できるようになり経費削減につながった。
- ・今後は毎年の栽培データを蓄積し、適宜栽培方法の見直しを行いながら就農5年後の所得目標達成を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (R2.7~R4.6)

準備型を活用し、2年間の研修

- ・実地及び座学研修にて栽培技術を習得。
- ・せんだい次世代農業経営者育成ゼミへの参加 (R3)。
- ・農地取得について関係機関へ相談し、青年等就農計画を作成。

現在 (就農2年目)

イチゴ養液栽培 20a
(鉄骨ハウス1棟、育苗ハウス2棟)

- ・R5年より事業で建設したハウスの親株から採苗して栽培開始。
- ・市場出荷の他、SNSを活用して広報を行い直売を行っている。

今後の目標 (就農5年後)

イチゴ養液栽培 20a
(鉄骨ハウス1棟、育苗ハウス2棟)

- ・法人のブランドイメージを向上させ、安定収入を確保。
- ・栽培データを活用し作業の効率化を進める。
- ・農業所得の目標は553万円。

秋場 淳克 さん (37歳)

(営農類型：水田)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に14年ほど勤めたのち、農業をする親の手伝いを2年ほど行いながら栽培技術を習得。自然を相手にする難しさや楽しさ、自分の努力が直接かえてくることに魅力を感じ、令和4年に経営を継承、経営開始。

導入した機械・施設等

- ・色彩選別機



初期投資を行う上で留意したポイント

継承した経営を安定発展させるにあたり、現状改善等を含めてどのようなものを整備するとよいか、サポーターとなっている地元農業者や県農業技術普及課等へ相談した。

導入の効果

色彩選別機を導入することで、作業の効率化が図られ、作業に係る労力が低減したほか、高品質米出荷の安定化につながり、当初の計画を上回る所得を得ることができた。

就農の状況と今後

就農準備（H31～R3）

親からアドバイスをもらいながら、水稻・果樹栽培に関する技術・経営を学ぶ。

現在（就農2年目）

水稻900a さくらんぼ70a
花き7a ほか

- ・農業経営を継承し、両親ならびに短期の雇用者により生産。
- ・導入機械により、生産向上をはかる。

今後の目標（就農5年後）

水稻1000a さくらんぼ70a
花き7a ほか

- ・機械化や規模拡大を目指す。
- ・果樹の新植、新品種への更新をはかる。
- ・農業所得目標は500万円。

高橋 善祐さん・未来さん (34歳・35歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

出身地である高畠町が、高品質なぶどうがとれる理想の地でありながらも、高齢で後継ぎがない事例も多く急速な産地の衰退を肌で感じ、自分たちにできることはないかと考え、令和4年に経営開始。農業生産を通じ、おぼこ(山形県の方言で「こども」の意味)世代に「ぶどうのある故郷の風景」を残したいと考え、農園名をoboco grapesと名付けました。ぶどう栽培を通じて3つのことを実践したいと考えています。1つは、おぼこ(童心)に戻るような、わくわくするモノコトづくりの実践。2つめは、おぼこのように愛情をもってぶどうを育て、お客様のもとに送りだすこと。3つめは、おぼこが継ぎたくなるような、(精神的にも経済的にも)豊かな農業の実践です。

初期投資を行う上で留意したポイント

- ・重要度と緊急性を考慮し優先順位をつけて設備投資を行いました。
- ・実際に同種の機械を導入している近隣のぶどう生産者へのヒアリングなどを実施したうえでメーカーと製品を検討しました。

導入した機械・施設等

- ・ぶどう雨除けハウス 1棟
- ・スピードスプレーヤー
- ・乗用モア



導入の効果

- 【SS】・作業時間手散布に比べ30%減。
 - ・夏季期間の作業負荷低減による熱中症の防止。
- 【乗用モア】・下草の適正管理による病虫害リスクの予防。
- 【果樹棚】・屋根被覆による病害の低減と経営の安定化。
 - ・果樹棚雨よけ一体型仕様のため棚締めが不要となりメンテナンスが容易に。

就農の状況と今後

就農準備(R2~R3)

- ・大手ワイナリーの自社圃場管理業務に携わり技術を取得。
- ・JAや普及員、町から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- ・農業機械の作業免許取得。

現在(就農2年目)

ぶどう、醸造用ぶどう 136a

- ・事業で雨除けハウスの整備や農業機械の導入を進め、経営規模を拡大。
- ・農業収入は約630万円(計画比105%)、農業所得は約35万円(計画比74%)。

今後の目標(就農5年後)

ぶどう、醸造用ぶどう 136a

- 農業収入24,932千円
- 農業所得10,162千円
 - ・高付加価値品種への植替。
 - ・生食ぶどうの単価上昇のための新たな販路開拓。
 - ・ワイン委託醸造と着実な販売。
 - ・MQ会計の活用による生産体制の把握と効率化に向けた仕組みづくり。

赤塚 啓希 さん (38歳)

(営農類型：水田)

新規就農を志した経緯・背景

- ・農業法人に勤めながら、実家の水田で水稻の作付けの手伝いをしていた。
- ・近年、地元で離農する農家が増えるなか、地元に貢献したい気持ちが強くなっていき、就農を決意した。
- ・農業法人での経験を活かし、水田で高収益作物(馬鈴薯、甘藷)を作付けし、広い土地を利用した土地利用型経営を開始した。

導入した機械・施設等

- ・トラクター 100ps 1台
- ・ロータリー 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・当初は、勤め先だった農業法人から機械を借りて対応できると考えていたが、離農する農家から耕作を依頼されることが多くなり、今後、急激に面積が増えることが予測できたため、このままでは対応することが難しくなると感じていた。
- ・そこで、作付面積の増加及び作業の効率化に対応するため、クローラー型のトラクターを導入した。

導入の効果

- ・クローラー型トラクターを様々な作業に活用した結果、導入前に比べ単位面積当たりの労働時間を削減することができた。
- ・導入した機械を活用した作業体系で、1年を通して農作業のスケジュールを立てることで、これからの規模拡大に向けた計画が具体化し、心身ともに余裕が出来た。

就農の状況と今後

就農準備 (H21.4～R4.3)

- ・農業法人で技術習得。
米・麦・馬鈴薯・そばの栽培作業、
機械のオペレーター。
- ・R3年度に町役場、普及センター
からアドバイスを受け、青年等就農
計画を作成。

現在 (就農1年目：R4)

- 馬鈴薯 0.5ha 甘藷 0.4ha
- ・経営発展支援事業でトラクターを
導入。
 - ・青年等就農資金を活用し、融資を
受ける。
 - ・所得116万円。

今後の目標 (就農5年後：R8)

- 水稻 23ha 馬鈴薯 5ha
小麦 5ha 甘藷 0.5ha
- ・馬鈴薯の契約販売先を1社→2社に
拡大する。
 - ・所得目標は2,000万円。

中村 麻衣 さん (40歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

北海道出身で子供の頃から農家への憧れもあり、ブルーベリー狩りで食べた果実のおいしさへの感動と「お客さんに喜ばれる農家になりたい」との思いから就農を決意。県の農業振興事務所へ相談したところ、引退される農家とマッチングでき、JAなす南の研修制度を1年間活用し、令和4年度に第三者継承、経営を開始した。

導入した機械・施設等

- ・果樹棚(12a)
- ・梨苗木(200本)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・初期投資を抑えるため、機械も継承者から賃貸借で対応。
- ・経営の安定を図るため、補助事業を活用し、初期投資の軽減を図った。
- ・キャッシュフローを作成し、支払期限の延長等農協の協力・支援のもと運転資金等の借入の低減を図った。

導入の効果

- ・第三者継承により、引退する農家から果樹棚を継承できたことに加えて、経済樹齢を超えた園地もあることから、事業で新たに果樹棚を整備(ジョイント栽培)したことで、早期の成園化も可能となり、今後の収量増加が見込めるようになった。

就農の状況と今後

就農準備(R3)

- ・令和3年に南那須農業アカデミーで研修開始。
- ・JA、市や県のサポートを受けながら第三者継承契約の準備や青年等就農計画を作成。

現在(就農2年目)

りんご 68a
梨 58a
もも 5a

- ・JAや直売所へ出荷とともに観光農園を運営。
- ・農業所得は約350万円。

今後の目標

りんご 68a
梨 70a
ブルーベリー 30a
もも 5a

- ・旬のものを楽しんでもらえる観光農園を運営。
- ・農業所得の目標は約600万円。

匿名希望さん (46歳)

(営農類型：露地野菜)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業で約18年勤めてきた中で事業主としての独立を考えるようになり、普及センター主催の農業体験会に参加したところ農業経営への魅力を強く感じ、自治体やJAの協力的なサポートもあり新規就農を決意。

1年間、近隣農家のもとで実作業の経験を積みながら農林大学校の「ぐんま農業実践学校」に通って就農準備を進め、令和4年春に営農開始。

導入した機械・施設等

- ・トラクター 1式 33ps
- ・マルチャー 1台
- ・野菜苗移植機 1台
- ・マルチスプレーヤ 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・「農業経営の長期継続」と「将来的な規模拡大」を目的とし、露地野菜の栽培や圃場管理を行う中で汎用的に使える機械を対象とした。
- ・繁忙期であり身体的な負荷が高まる夏場に、秋冬野菜の準備（土づくり、播種、育苗、定植）や管理（除草、防除）をどれだけ効率的に行えるかが課題で、そのために必要な機械を優先して導入した。

導入の効果

トラクターと作業機一式（ロータリー、スライドモア、コンポキャスト）、マルチャーの導入により、圃場管理や土づくりの作業効率が上がり、経営規模の早期拡大を行うことができた。

野菜苗移植機やマルチスプレーヤの導入により、ブロッコリー苗の定植やナス防除作業の効率が飛躍的に上がり、体への負荷も軽減したことで、繁忙期を無理なく乗り切ることができた。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4.3）

- ・令和3年に研修開始。
- ・近隣先輩農家による実地指導。
- ・「ぐんま農業実践学校（野菜専門技術課程）」受講。
- ・普及員やJAからアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- ・先輩農家の紹介で農地と作業場を確保。

現在（就農2年目）

ナス 10a ズッキーニ 13a
ブロッコリー 20a
ちぢみホウレン草 12a

- ・導入した機械の活用により計画を前倒して経営規模を拡大。
- ・農業所得は約270万円。
（当初計画の5年目水準）

今後の目標（就農5年後）

ナス 10a ズッキーニ 20a
ブロッコリー 60a
ちぢみホウレン草 10a

- ・ブロッコリーの栽培面積を拡大し各月の作業時間と売上の平準化を図っていきたい。
- ・農業所得の目標は400万円。

萩原 直人 さん (31歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

- ・幼少時から親しんだ祖父母の畑は、今ではアパートに変わり、自家近くでは辞めてしまった農家も少なくない。そんな現状を目の当たりにした時、農業は高齢化が進み若い人がいない、それなら自分が農業をやってみよう、そう決意して……。
- ・農業法人で施設野菜栽培の実務に3年従事した後、県農業大学校で1年間、野菜の基礎技術を学んだ。大学卒業後、久喜市明日の農業担い手育成塾に入塾し、2年間、露地野菜と施設きゅうりの実践研修を行い、令和4年7月に経営開始。

初期投資を行う上で留意したポイント

- ・研修中、作付計画や販売計画を作成し模擬販売を行ったが、計画通りにいかない現実直面した。経営を安定させるためには、年間通して安定した生産計画をしっかりと練る必要性を痛感し、市、農林、公庫と十分に相談を重ね、施設の導入を行った。
- ・鉄骨ハウスの導入に当たり、種苗メーカー、JA、指導農家と相談を重ね、きゅうり栽培に必要な設備を十分に検討した。

導入した機械

・施設等

- ・鉄骨ハウス15a
- ・暖房機・循環扇
- ・井戸・ポンプ



導入の効果

- ・天候の影響を受けにくい。
- ・年間通した安定生産。
- ・高品質なきゅうり生産により収益確保。



就農の状況と今後

就農準備 (R2～3)

- ・令和2年から研修開始。
- ・担い手塾で指導農家や種苗メーカーのサポートを受け、技術を習得。
- ・普及指導員からアドバイスをもらい、青年等就農計画を作成。

現在 (就農3年目)

- 施設きゅうり15a
露地野菜5a (市場出荷中心)
- ・R5.3月に経営発展支援事業により新設した鉄骨ハウスにて、施設きゅうりの栽培を実施。
- ・施設きゅうりの安定生産、収量向上を目指す。

今後の目標 (就農5年後)

- 施設きゅうり15a
(年間収量30t / 10a)
- 露地野菜 5a
- ・きゅうりの安定生産。
- ・規模拡大(現状の2倍)に向けた雇用導入。
- ・目標農業所得350万円。

山岸 さん (34歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

全国的に農業者の高齢化や樹園地面積が減少していくなどの背景から、地元の重要な産業としてこれからも守っていきたいという思いを持ち始めました。さらに、長野県内では非農家の新規参入も積極的に受け入れているという状況を知ってから自分自身でやりたいと思うようになりました。

導入した機械・施設等

- ・ぶどう棚20a



初期投資を行う上で留意したポイント

研修先の農家の仲介により、経営開始のタイミングで既存園に隣接した農地を借り受けることができたため、経営の安定化や今後の農地集約を考慮した上で適切なぶどう棚を、導入した。

導入の効果

- ・ぶどう棚を新設したことにより今後の経営の見通しがついた。
- ・成園と養成園を持つことで改植をスムーズに行い、経営の安定を図る。
- ・農地を集積したことで、特に防除や草刈りなどの作業を効率的に行えた。

就農の状況と今後

就農準備（R2～3）

- ・長野県の里親研修制度を利用し令和2年に研修開始。
- ・県や市から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。
- ・貯蓄により生計を維持。

現在（就農1年目）

- ・露地ぶどう50a
- ・農業所得419万円。
- ・本人、両親での家族経営。
- ・販売先はJA、小布施産直グループ。
- ・品種はシャインマスカット、巨峰、ナガノパープル。

今後の目標（就農5年後）

- ・露地ぶどう60a
- ・農業所得350万円目標。
- ・本人、両親での家族経営。
- ・販売先はJA、小布施産直グループ。
- ・品種はシャインマスカット、巨峰、ナガノパープル、クインルージュ®。

稲木 遊野 さん (28歳)

(営農類型：果樹)

新規就農を志した経緯・背景

大学生のころ、父から紹介されたみかん農家から「自分の作った作物を食べて、美味しいと言ってもらえる、やりがいのある仕事」と聞き、自身もみかん生産に挑戦したいと思った。

大学卒業後、農研機構果樹研究所（興津）で栽培技術を学んだ後、浜松市のみかん農家における研修（雇用）を経て、令和4年度に就農。

導入した機械・施設等

- ・農業用運搬車
- ・ウッドチップパー
- ・自走ラジコン動力噴霧器
- ・乗用草刈機
- ・肥料散布器



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・経営開始時には園地の6割が幼木であったため、成木になった時の作業量を意識して導入する機械を選択した。
- ・研修先とは違い少人数で作業することが多いと考え、研修先や農機具メーカーと相談しながら、少人数で効率的に作業できる機械を導入した。

導入の効果

- ・補助金を活用することで、就農当初に最低限必要な規格の機械ではなく、5年後の生産量拡大を見据えたスペックを備えた機械に投資ができたため、現時点でも効率よく作業ができている。
- ・今後は、地域内外のみかん農家から技術を学び、就農5年後には所得400万円を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（H30～R4）

- ・平成30年から、農業次世代投資事業（準備型）を活用し、農研機構果樹研究所（興津）で研修。
- ・令和2年からは、県に紹介された株日下農園で研修（雇用）。
- ・県及び市から補助金等の情報をうけつつ、青年等就農計画作成。

現在（就農1年目）

温州みかん200a

- ・農地は、地域の規模縮小する農業者から、研修先が一時借り入れて管理した園地を譲りうけて確保。
- ・労働力は、本人と臨時雇用4名。
- ・生産量は、計画で約28tのところ、実績(概算)で約45t収穫した。

今後の目標（就農5年後）

温州みかん200a

- ・幼木の管理を徹底し、早期に成園化させて生産量を増加させる。
- ・生産量の増加に備えて、みかんの貯蔵用の倉庫を新たに確保する。
- ・農業所得の目標は約400万円。